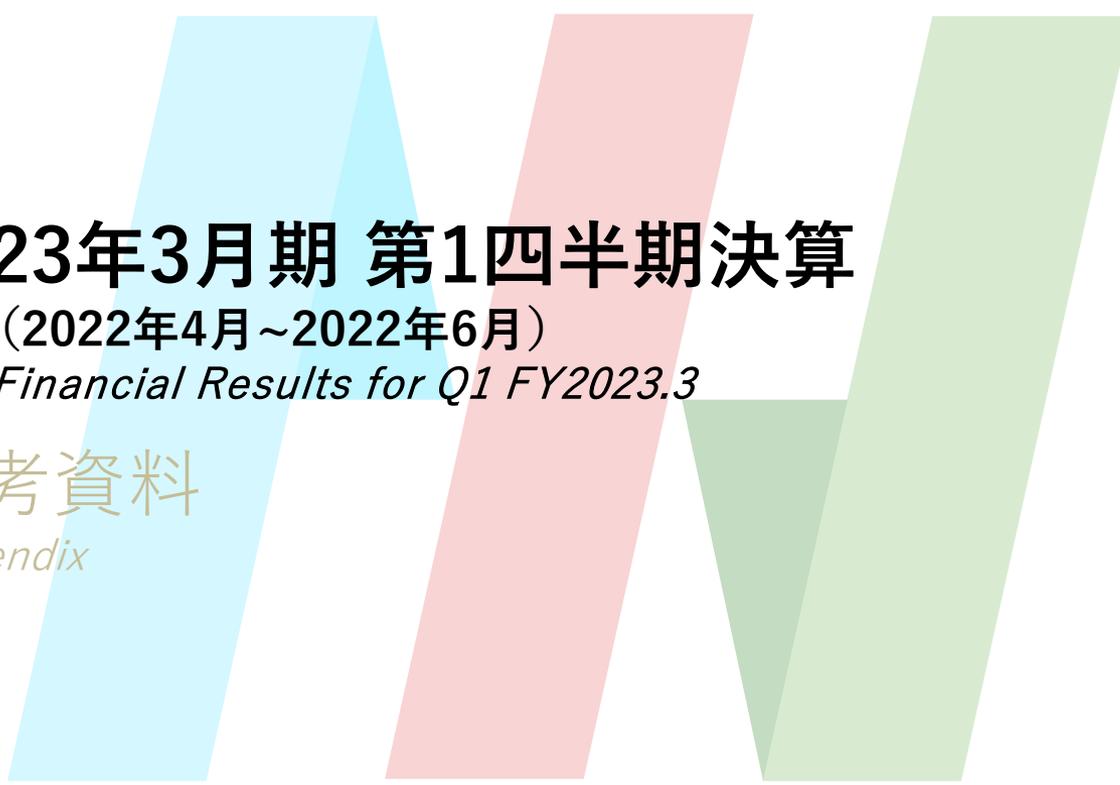


# アサヒホールディングス株式会社

## 2023年3月期 第1四半期決算説明資料

2022.7.28

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



# I. 2023年3月期 第1四半期決算

(2022年4月~2022年6月)

*Financial Results for Q1 FY2023.3*

## II. 参考資料

*Appendix*

単位：億円

	2022/3期 1Q	2023/3期 1Q		2023/3期	
	実績	実績	前期比 増減	予想	前期比 増減
売上収益	504	597	93	2,000	76
営業利益	69	57	△12	240	△24
営業利益率	13.7%	9.5%	△4.2%	12.0%	△1.7%
税引前利益	68	61	△7	235	△29
当期利益 <sup>※1</sup>	48	43	△6	160	△27
設備投資	21	13	△9	65	△18
減価償却費	7	8	1	30	3

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益

## 貴金属事業

国内・アジアの貴金属リサイクル分野は、宝飾やエレクトロニクス分野からの回収が増加、デンタルや自動車触媒関連の回収量は減少  
北米精錬分野は、製品加工・販売が増加

分野	事業環境
デンタル	貴金属価格高騰による代替製品の浸透により金属離れが進み回収量は減少傾向
宝飾	貴金属相場高騰に合わせて買取需要が拡大、買取業者からの回収量は大幅な増加
触媒	半導体不足の影響により自動車販売台数が減少し、国内外ともに回収量が減少
エレクトロニクス分野	上海ロックダウンにより一部の分野で減産影響を受けるが、産業用途の需要拡大で回収量は増加
北米精錬	製品加工・販売などの取引が増加

## 環境保全事業

教育機関や医療業界、建設業界、化学産業からの回収量は増加したが、外食業界は依然として低迷。自動車業界は半導体不足により減少。

業界	事業環境
教育・研究機関	教育機関からの回収量は回復基調にある
建設	住宅着工件数は回復基調にあり、関連して発生する廃棄物回収量も増加傾向
自動車	半導体・部品不足によって工場稼働減となり、廃棄物回収量も減少
食品	外食需要は依然低迷しており、廃棄物の発生量は減少傾向が続く
医療	感染者宿泊療養施設の増加に伴い、医療廃棄物の回収量および焼却処理量が増加
化学	消毒薬関連等の回収量が増加傾向

## 貴金属リサイクル分野(国内・アジア)

### 2023年/3期1Q実績

製品販売は好調であったが、  
新工場立上げに伴う、費用増加等の影響あり

→増収・減益

## 北米精錬分野

### 2023/3期1Q実績

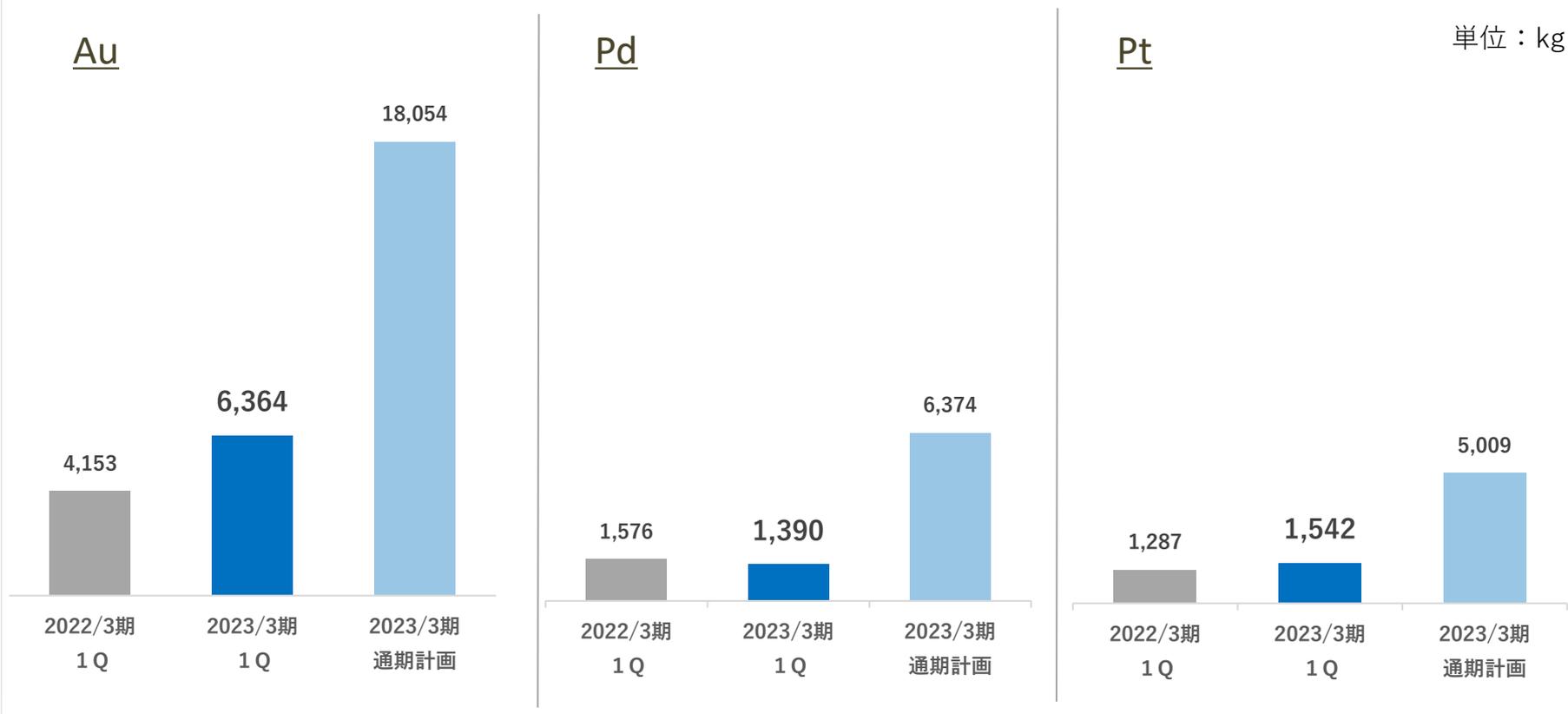
製品加工・販売が増加

→増収・増益

(単位:億円)

貴金属	2022/3期 1Q		2023/3期 1Q		2023/3期 通期	
	実績		実績	前期比 増減	予想	前期比 増減
売上収益	463		553	90	1,810	71
営業利益	72		56	△16	240	△26
利益率	15.5%		10.0%	△5.5%	13.3%	△2.0%

- ✓ 宝飾分野を中心に金の回収量が大幅に増加
- ✓ パラジウムは価格の高騰に伴う歯科代替製品の浸透や新車販売台数の減少により、回収量が減少



## 環境保全事業

### ■ プラス要因

工業生産活動の回復により、産業廃棄物の処理量は増加傾向。

### ■ マイナス要因

JWガラスリサイクル社の連結除外

→増収・増益

(単位:億円)

環境保全	2022/3期 1Q		2023/3期 1Q		2023/3期 通期	
	実績		実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	42		44	3	190	4
営業利益	7		9	3	35	△2
利益率	16.0%		21.0%	5.1%	18.4%	△1.7%

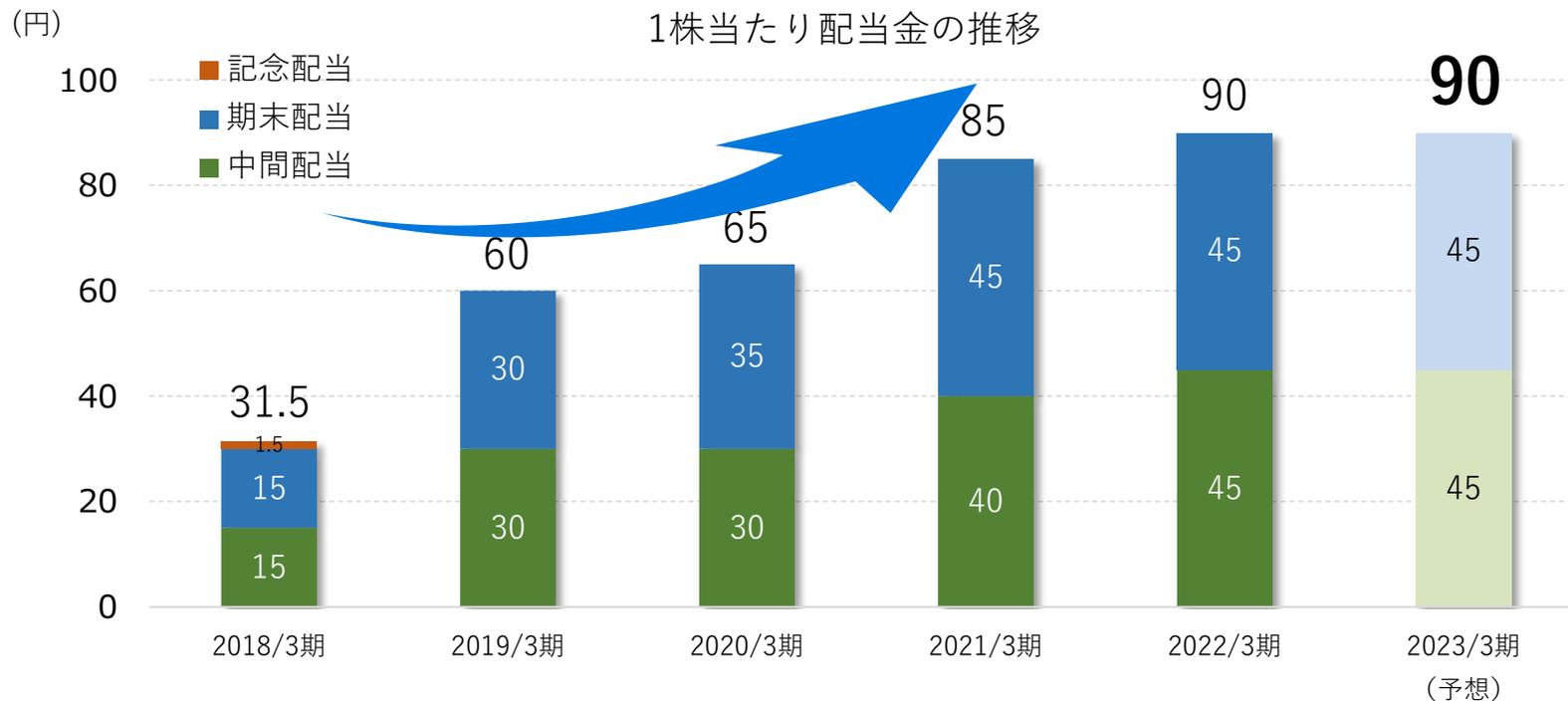
〔単位：億円〕

	2022年 3月末	2022年 6月末	増減	備考
流動資産	2,418	2,323	△ 95	
営業債権	1,514	1,254	△ 261	営業債権残高および増減額の大部分は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権。
棚卸資産	634	708	74	棚卸資産残高および増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。貴金属含有量を分析してから購入し、同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的。
その他	269	361	92	
非流動資産	566	548	△ 18	
資産計	2,984	2,871	△ 113	
負債	1,933	1,764	△ 168	
社債及び借入金	1,509	1,429	△ 80	借入金残高の大部分は北米事業の前渡し取引等の借入金。原料入荷後に貴金属含有量を分析し、この範囲内で借入による前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的。
その他	423	335	△ 88	
資本	1,051	1,106	55	
資本負債計	2,984	2,871	△ 113	

〔単位:億円〕

	2023/3期 1Q	備考
営業活動によるキャッシュフロー	△ 14	
棚卸資産の増減額	△ 74	増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の <b>貴金属含有原材料/仕掛品/製品</b> 。貴金属含有量を分析してから購入し、同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、品質劣化リスクとも極めて限定的</b> 。
営業債権及び その他の債権の増減額	362	増減額の内、 <b>347億円は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権の増減額</b> 。原料入荷後に貴金属含有量を分析し、この範囲内で借入による前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的</b> 。
営業債務及び その他の債務等の増減額	△ 304	増減額の内、 <b>△ 315億円は北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額</b> 。借入金の増減額の内、北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額は、財務CFではなく、営業CFの営業債権の増減額として表示される。この借入金はすべて前渡し取引等の地金調達に使われるため、 <b>品質劣化リスクや貸倒リスクはない</b> 。先物取引で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスクも極めて限定的</b> 。
その他	2	
投資活動によるキャッシュフロー	7	
財務活動によるキャッシュフロー	42	
借入金の増減	78	
配当金の支払い額	△ 35	
その他	△ 1	
換算差額	△ 0	
現預金の増減額	34	

基本方針：成長戦略のための設備投資やM&Aに必要な内部留保充実を図りながら、配当性向40%を目処とし、現在の年間配当水準から目減りさせず、安定的に配当を継続する



1株当たり利益(円)	135.39	114.07	125.12	326.90	231.27	203.45
配当性向(%)	23.3	52.6	52.0	26.0	38.9	44.2

※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2020年度までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示



I. 2023年3月期 第1四半期決算  
(2022年4月~2022年6月)  
*Financial Results for Q1 FY2023*

II. **参考資料**  
*Appendix*

## 貴金属リサイクル事業

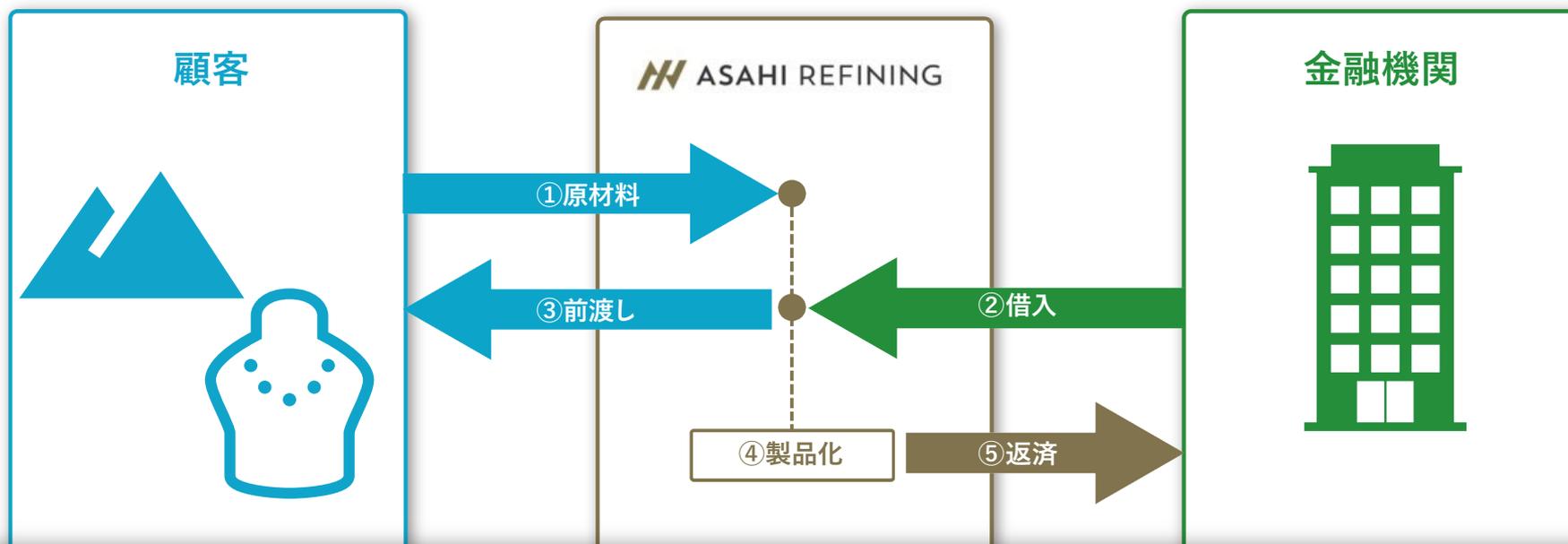
精錬手数料は固定的な安定収益。  
そこに収率差異による収益がプラス。

## 北米精錬事業

精錬手数料は安定収益。金融収益は原料入荷量が増加すれば収益機会が増える。

事業分類	区分	収益影響
貴金属リサイクル	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 回収量が増えれば精錬手数料は増加する。</li> <li>■ 精錬手数料の単価は前処理が難しいものほど単価が高くなるため、難処理物の回収割合が高くなれば平均単価は高くなる。</li> </ul>
	収率差異(実収率と契約収率との差異=フリーメタル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルが増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
北米精錬	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 精錬原料(ドーレ)の入荷量が増えれば手数料は増加する。</li> <li>■ 長期契約のため手数料単価は短期的には変動しない。</li> </ul>
	収率差異(実収率と契約収率との差異=フリーメタル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルの数量が増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
	金融収益	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原料入荷量が増加すれば金融取引による収益機会が増加する。</li> <li>■ 鉱山との間の契約で前渡し金利の利率が改善すれば収益は増加する。</li> <li>■ 前渡しの期間が長くなれば収益は増加する。</li> <li>■ メタル調達コストが下がれば金利スプレッドが拡大し、金融収益は増加する。</li> </ul>

- ✓ 原材料入荷から製品返却までの納期を短縮して製品を返却する「前渡し」を提供
- ✓ 契約納期前のメタル返却に応じることで、顧客から「前渡し日数分の金利」を得る
- ✓ 原材料を受領してから前渡しを行うため、貸倒リスクはない



≫ 仕組み金融等の新たなファイナンスサービス開発

## 財務状態

〔単位:億円〕

	2022年 6月末	北米事業を除いた 場合
流動資産	2,323	1,223
非流動資産	548	548
資産計	2,871	1,771
負債	1,764	665
資本	1,106	1,106
資本・負債計	2,871	1,771

## 自己資本比率

2022年6月末

38.5%

「前渡し取引」による借入金

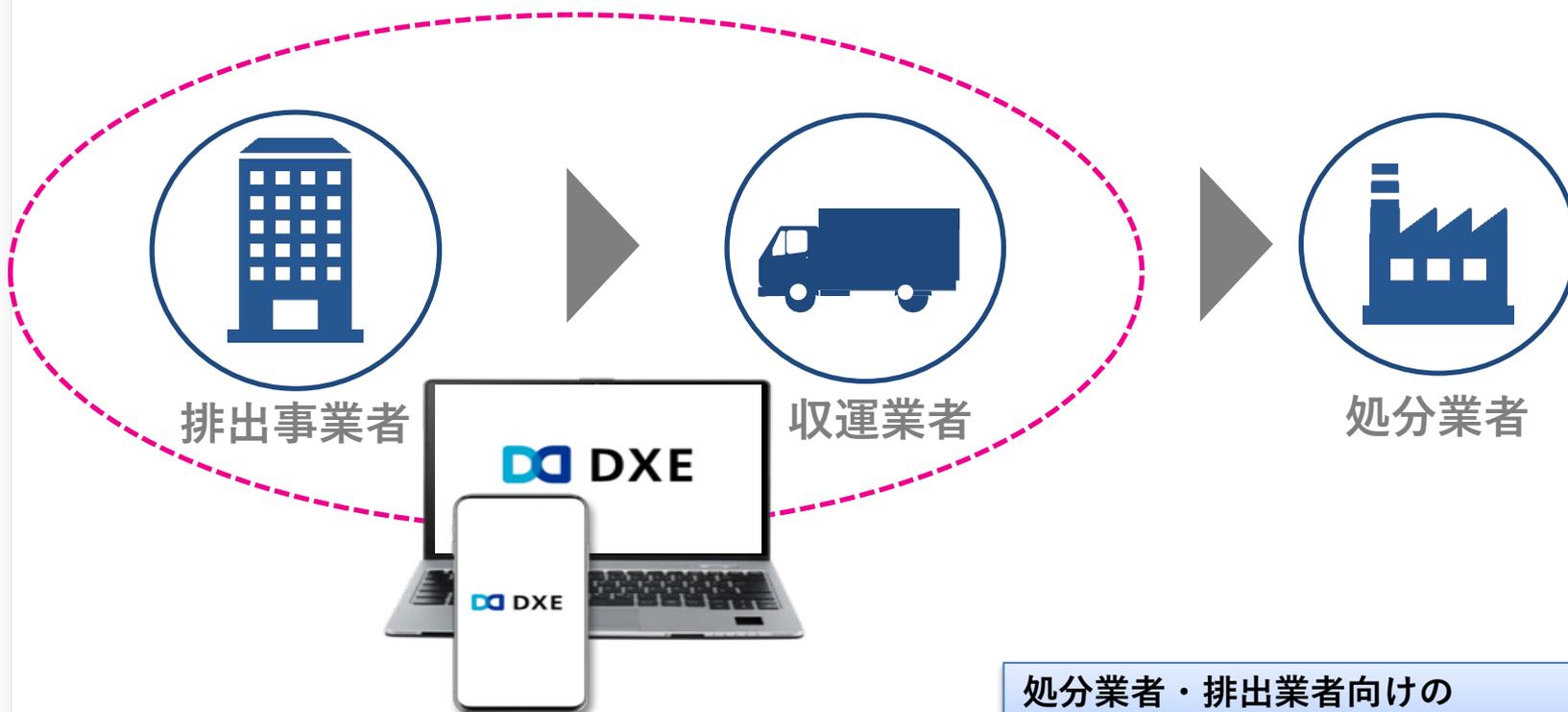
北米事業を除いた場合

62.5%



- ✓ 金融サービスに必要な大規模資金を低金利で調達
- ✓ 精練と金融は不可分的であり、北米事業の拡大のために必要
- ✓ 金利上昇時も、北米事業の収益性は概ね不変

✓ 産業廃棄物フローをDX化するSaaSサービスを6月にリリース



処分業者・排出業者向けのサービスは2023年1月アップデート予定

✓ 搭載機能例



**投資目的：事業拡大・利益率向上**  
**第9次中期経営計画（3年間）投資総額：227億円**



**坂東工場**

✓ アジア最大級の最先端リサイクル工場



**北米事業**  
(精錬&倉庫設備)

✓ 倉庫事業の立上げ&既存設備強化



**横浜焼却炉\*イメージ**

✓ 東日本地域の廃棄物を大型焼却拠点

単位：億円

	2022/3期		2023/3期		備考
	中期経営計画	実績	中期経営計画	修正計画	
貴金属事業	63	77	32	58	—
国内	47	40	19	22	水素サプライチェーン構築への投資として約3億円
海外	16	36	13	36	21年度に完成予定施設の期ずれと追加投資
環境保全事業	8	7	22	7	焼却プロセスの見直しによる投資計画の一部見直し
総計	71	83	54	65	3か年の投資総額に変更はない

## ✓ アジア最大級の最先端リサイクル工場

- 原材料回収から製品化までの工程を集約
- 最先端IoT技術の導入により、生産効率を向上
- BCM（事業継続マネジメント）の観点で優れた工業生産地域
- 建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）において、最高評価とZEB Ready\*認証を取得



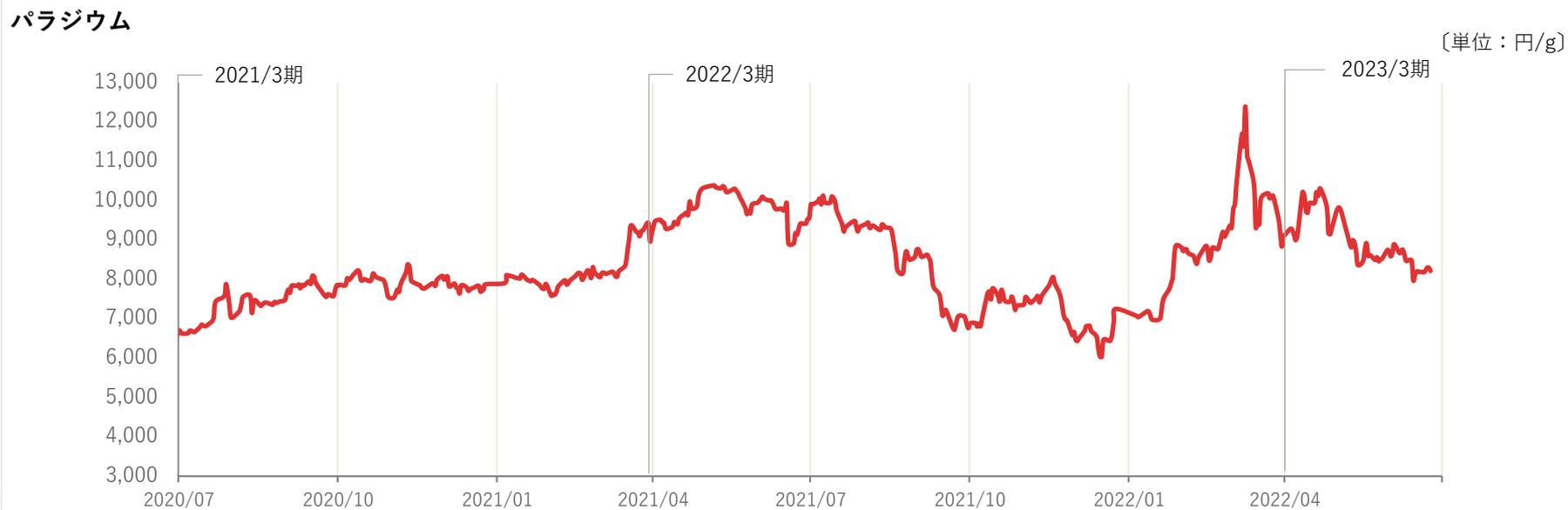
© BANDO CITY.

\*BELS（ベルス）建築物省エネルギー性能表示制度…新築・既存の建築物において、省エネ性能を第三者評価機関が評価し認定する制度です。  
国土交通省建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）の概要より引用 <https://www.mlit.go.jp/common/001031559.pdf>

ご参考：坂東市強靱化計画  
2011年の東日本大震災の教訓を受けた坂東市が作成した「坂東市強靱化計画」にて  
BCMやサプライチェーンの観点から「目標5 経済活動を機能不全に陥らせない」を目標に掲示。  
坂東市国土強靱化計画より一部引用 <https://www.city.bando.lg.jp/page/page006456.html>

- ✓ 2021年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub> 排出量は基準年度比▲27%
- ✓ Scope1は90千t CO<sub>2</sub>、Scope2は13千t CO<sub>2</sub>、Scope3は137千t CO<sub>2</sub>
- ✓ TCFD提言に基づく対応状況は下記の表の通り

項目	取り組み状況／対応方針
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CEOを委員長とし、事業部門・技術部門・管理部門の役員等で構成するサステナビリティ委員会において気候変動問題を経営レベルで審議</li> <li>• 取締役会においてサステナビリティ委員会の審議事項を監督する体制を構築</li> </ul>
戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 4°C及び1.5°Cでシナリオ分析を実施</li> <li>• 事業マテリアリティの一つに「CO<sub>2</sub>排出量の削減」を設定</li> </ul>
リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シナリオ分析等により抽出されたリスクや目標の対応状況を、サステナビリティ委員会及び取締役会に定期的に報告</li> </ul>
指標と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2030年までにエネルギー起源CO<sub>2</sub>を2015年度比50%削減（2021年度実績は27%削減）</li> <li>• 合わせて2050年カーボンニュートラル達成（Scope1及びScope2）を目指す</li> <li>• 2021年度Scope1排出量は90千t CO<sub>2</sub>、Scope2排出量は13千t CO<sub>2</sub>、Scope3排出量137千t CO<sub>2</sub></li> </ul>



## プラチナ

[単位：円/g]



## 期中平均価格 (ご参考)

単位：円

貴金属 価格 (1gあたり)	2022/3期 1Q		2023/3期 1Q	
	期中 平均価格		期中 平均価格	増減
金	6,421		7,832	1,411
パラジウム	9,805		8,950	△855
プラチナ	4,241		4,087	△154

◆参照元  
 金…山元建値  
 パラジウム…日経安値  
 プラチナ…小売価格 (税抜)